

初期臨床研修プログラム：眼科

コース責任者：佐藤昭一 指導医：佐藤昭一 上級医：阿部慎也

コースの位置づけ：他科選択中のサブコースとして週1日、1ヶ月から(4回～)

選択科として1ヶ月から

I 一般目標(GIO;General Instructional Objective)

サブコース

眼科診療とはいかなるものかを理解する。

眼科は高度に専門化された領域である。眼科疾患の特徴、眼科疾患を患う患者に対する注意点、眼科診療における医師の考え方を学ぶ。

選択科

眼科医でなくとも必要とされる眼科初期診療を学ぶ。臨床医として、日常遭遇する眼科疾患を、初期治療でよいもの、緊急性あるいは専門的な診断、治療が必要であるものを判断できる知識・技量を習得する。

II 行動目標(SBOs;Specific Behavioral Objectives)

サブコース

指導医の外来診療を見学し、以下のことを経験、修得する

1 問診、病歴聴取

2 視診（視力障害、視野障害患者の行動の特徴、眼位、眼球運動、対光反射）

3 基礎的な眼科検査を理解し、眼科診断の基本的な考え方を学ぶ

選択科

外来診療見学だけでなく、自ら眼科検査をおこない、診断および治療計画をたて指導医の指示を仰げるまでになる。入院診療にも参加する。

1 眼科に必要な解剖および視機能と基本的疾患を理解する。

2 細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、眼圧測定などの基本的眼科診察手技を習得する。

3 視力障害、視野障害などの概念を理解できて、緊急度・重症度を判断できる。さらに、必要な眼科検査を選択できる。

4 眼科救急疾患（急性緑内障、網膜動脈閉塞症、網膜剥離、外傷、異物など）の診断と初期治療を実践する。

5 眼と他科疾患（全身疾患、糖尿病、高血圧など）の関連を理解する。

6 基本的な治療手技（レーザー治療、白内障手術、網膜剥離手術、外眼部手術など）の方法、手順を理解する。

7 担当医として入院患者を受け持ち、術前評価、治療方針の決定、インフォームドコンセントの手順、術前術後管理を理解する。

8 眼科で用いる点眼、内服、注射薬の薬理作用、投与方法の基礎を理解、習得する。

III 学習方略(LS;Learning Strategy)

外来研修

サブコース

- 1 他科研修に影響の少ない曜日の午前中、指導医の外来診療を見学する。
- 2 問診・病歴聴取を行い、当該患者の指導医による診療の後、診断の道筋、治療の基礎をディスカッションする。

3 午後にも研修可能な場合は、眼科特殊検査、手術の見学、さらに手術助手を務める
選択科

指導医、視能訓練士による眼科検査法のレクチャーを受ける

細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、眼圧測定、矯正視力検査、視野検査

外来診療

- 1 眼科問診、必要な検査指示、検査結果の理解、診察（細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、眼圧測定など）、診断、治療方針、処方（点眼液の種類など）を実習する。
- 2 視力検査室において、視能訓練士の指導のもとに、眼科検査（視力測定、視野検査、眼球運動検査、斜視・弱視検査など）の意義を学習して、実践する。
- 3 眼科特殊検査（眼底写真、蛍光眼底造影検査、眼底三次元画像解析、前眼部スリット写真、角膜内皮測定、超音波検査など）を指導医のもとに実習する。

病棟研修

- 1 病棟回診に参加する。
- 2 入院患者の担当医となり、診察、治療方針、術前術後管理などを習得する。

手術研修

- 1 手術室において、手術の見学、助手を務める。簡単な手術手技を実践する。
- 2 レーザー治療室において、光凝固治療を見学、介助する。

眼科救急研修

- 1 指導医とともに、眼科救急患者の診療をおこなう。

IV 学習評価(Ev;Evaluation)

研修終了時に、自己評価および指導医、スタッフによる評価をおこなう。

知識：レポート、EPOC

技能：診察、技術習得を以下の目安で評価する

研修 1 ヶ月：細隙灯顕微鏡を用いての診察ができる。追加検査がオーダーできる。

研修 2 ヶ月：散瞳した状態で、眼底後極部の診察ができる。追加検査がオーダーでき、おおまかな診断をつける

研修 3 ヶ月：散瞳した状態で、眼底全体の診察ができる。診断をつけ、治療を選択できる

態度：指導医、看護師、コメディカルによる

眼科研修における週間予定

曜日	午前	午後
月	外来見学	手術見学、眼科検査・疾患レクチャー
火	外来見学、初診問診	手術見学、眼科検査・疾患レクチャー
水	外来見学、初診問診、初期検査	手術見学、眼科検査・疾患レクチャー
木	外来見学、初診問診、初期検査	眼科検査実習
金	外来見学、初診問診、初期検査	手術助手、眼科検査・疾患レクチャー